

第77回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日 時	平成30年7月6日（金）14時00分～16時00分
開催場所	関内中央ビル 10階大会議室
出席委員	工藤委員長、蟻川委員、有賀委員、大久保委員、岡本委員
欠席委員	なし
法 人	事務局長ほか
事務局	海道大学担当理事、森田大学調整課長、井上大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 0名）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第76回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）について</li> <li>2 平成29年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績報告について</li> <li>3 公立大学法人横浜市立大学 平成29年度決算及び財務諸表等について</li> <li>4 平成29年度決算における法人利益処分について</li> <li>5 国際総合科学部の再編に伴う中期目標（第2教育研究組織）の変更について</li> <li>6 その他</li> </ol>
決定事項	
議 事	<p>主要な発言は、以下のとおり。 （○：委員発言、△：法人・事務局発言）</p> <p><b>※議題1について</b> 特に意見なし</p> <p><b>※議題2について</b></p> <p>○2年続いていた赤字が黒字になったということで、大学の努力に感心している。ただ、この黒字が単年度で終わってしまったのでは意味がない。</p> <p>○今回、黒字化できた要因として、プロジェクト化して現場の意見を吸い上げたことが効果的だったということだが、経費節減など、職員の受け止め方はどのような状況か。特に2病院の状況について、ご教示願いたい。</p> <p>△年4回ほど、大規模会場において、全員で意見交換した際には、特段ネガティブな意見はなかった。経営改善ばかりを追い求めると、医師や看護師の労働時間が増してしまう危惧があることから、労働時間を増やさないで対応できる取組を優先した。データを見える化し、アクティブな部門・診療科とそうでないところを明示し、院内で共有したことが効果的だったと思う。</p> <p>○素晴らしい。情報の見える化により、一人ひとりが法人の現状を迅速に理解できる体制であることは大事なこと。働き方改革も進めてほしい。</p> <p>○国際総合科学部の再編について、教学サイドの改革がポイントと考えるが、学長はどのような役割を果たしていたのか。</p> <p>△経営的な部分は理事長、教学的な部分は学長がリーダーシップを取り、現場の教員の生の声をしっかり聴きながら、意見交換して、検討を進めた。</p> <p>○国際化の取組は徐々に発展しているように見える。教育は時間をかけて長いスパンで成果を上げていくタイプのものである。数値目標に捉われすぎないことが重要だが、地道な息の長い取組を通じて、受け入れの学生も送り出しの学生も増えているようだ。評価できる。学生が留学する場合、休学して行くことになるのか。</p>

△ケースバイケースとなる。交換留学の場合は、単位互換制度もあるので休学しないケースもある。ただし、実状として、1年間留学に行ってしまうと卒業まで1年多く掛かるケースが多いので、短期間や交換留学が増えている傾向にある。

○語学留学の場合は休学、単位を取得した場合は単位交換を審査する大学もあるようだ。留学に関して費用負担や支援はあるのか。

△海外学生派遣に関する経済支援の重要性は認識している。プログラムの難易度や派遣地域の経済状況等を勘察し、メリハリの効いた補助金の支給を行っている。寄付を原資とした奨学金制度や、本学後援会、外部団体に積極的に働きかけて経済支援の財源確保に努めている。また、長期に渡って留学する場合は本学の授業料の学費を減免する制度も導入した。さらに、金融機関と連携した定期積立金制度も試行的に運用を開始している。

○支援策が充実しているようだ。素晴らしい。

○医療事故を未然に完璧に防ぐことは非常に難しい。事故が起こってしまったことはしっかり反省し、検証しなければならないが、妥当かつ合理的に再発防止策を講じたか否かという視点も評価の対象として重要ポイントと考える。

△医療事故が発生してしまったということを受けて、「B」の自己評価とした。声掛けによる情報共有や、システム改修等を行い、ヒューマンエラーを抑えられるような取組をしっかりと行っていきたい。

△医療事故が起きてしまったことに加え、大学として、それを未然に防ぐヒューマンの部分や、ICT、ルールがシステムとしてしっかり整備されていなかったことを踏まえ、自己評価を「B」とした。

○システムやルールづくり等の取組だけでは不十分である。ルールに従うだけでは本質的な対策とはいえない。患者の幸せや安心、安全を第一に考えるという臨床倫理的な観点から議論すべき問題である。

○臨床研修医のマッチ割れとなった要因は何か。

△一部、国家試験に不合格となった学生もいた。ただ、附属病院でフルマッチが達成できず、小児科では0/4となってしまった。

○横浜市立大学は公立大学として、市民の命を守り、機微情報を取り扱っていることの責任は非常に重い。現場が大変であることは理解しているが、結果として医療事故を起こしたという点で評価が「B」になるのはやむを得ないと思う。

○「V 法人の経営」について、コンプライアンスが「B」、財務内容が「S」となっている。総評として、平均化して「A」としているようだが、項目によって重みが異なってくるのではないか。「V」の項目はすべての取組の土台となるもので、出来て当たり前の項目という点ではその重みは決して軽くない。地域貢献や国際化といった他の前向きな施策と同水準で評価することに違和感がある。

○ルールがない、体系的な仕組みがないのであれば、適切な評価は難しいのではないか。次元が異なるものは項目を分けて評価すればよいのではないか。

○市民目線でニュートラルに評価することを大事にしたい。例えば、業績で黒字が何期も続き、様々な項目で目標達成できたとしても、あつてはならない事故を起こしてしまったら、全体としての評価は低くせざるを得ない。

○それぞれの評価の質や視点も異なるが、昨年度までの評価の経過を踏まえ、今回は、各委員の評価が揃った段階で、改めて議論し、調整したい。

	<p>○過去にあった医療事故事案では、マニュアルが無かったことが要因の一つとして報告されていたが、マニュアルを整備する前に、正しい知識を習得できる教育をしっかりと行うことが大事ではないか。マニュアルを整備すればよいというものではない。</p> <p><b>※議題 3、4 について</b> ○退職金改定の内容はどのようなものか。</p> <p>△国や他自治体の状況を踏まえ、教員についてもその他職員同様に、算定期間を 60 か月分から 50 か月分に引き下げた。</p> <p>○今回の退職金の改定により、退職給付債務は変わるのか。財務諸表をみると、期首に比べ、期末の退職給付債務が増えている。</p> <p>△今回の退職金の改定は一時的なものであるため、臨時利益の取扱いとした。法人全体では、若い職員が多く、退職給付金債務は増加傾向にある。こうした背景から期首に比べ、期末の退職給付債務は増えている。</p> <p><b>※議題 5 について</b> 特に意見なし</p> <p><b>※その他について(横浜市立大学 90 周年式典)</b> 特に意見なし</p> <p><b>【事務局】</b> ・次回のスケジュール等、連絡事項の説明。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料]</p> <p>資料 1 第 76 回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録 (案)</p> <p>資料 2 平成 29 年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績報告書</p> <p>資料 3 平成 29 年度決算について</p> <p>資料 4 平成 29 年度決算概要報告</p> <p>資料 5 平成 29 事業年度 財務諸表</p> <p>資料 6 平成 29 事業年度 決算報告書</p> <p>資料 7 平成 29 事業年度 事業報告書</p> <p>資料 8 独立監査人の監査報告書</p> <p>資料 9 平成 29 年度 決算監査報告書</p> <p>資料 10 平成 29 年度決算における法人利益処分</p> <p>資料 11 評価記入用紙</p> <p>資料 12 中期目標変更案</p> <p>[参 考]</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>